

災害時の市民の安全確保を

安全確保を

総務経済委員会

令和元年第3回定例会総務経済委員会審査
9月6日と10日に当委員会に付託された、

- ①会計年度任用職員報酬等に関する条例
- ②印鑑条例の一部を改正する条例
- ③令和元年度一般会計補正予算
- ④平成30年度一般会計歳入歳出決算認定

特に質疑が多かった決算認定議案からは、次年度の予算編成に反映させたい項目として3件の要望指摘事項を市長に提出しました。



備蓄倉庫の現状を危機管理課長より説明を受ける



備蓄倉庫内の備品や備蓄品の保管状況、建物の状態を確認した

9月11日、狭山市内の防災施設の老朽化状況について、備蓄倉庫2か所、消防団消防車庫2か所の視察を行いました。その後、担当課長より設備の現状と今後の予定、また消防団組織の課題と今後の取り組み予定などの報告があり、こちらも多くの質疑と意見がありました。防災設備は、災害時の対応や復旧の要となるものであり、その維持・管理は重要であることから委員会として、状況や効果を今後も注視し、必要に応じて適宜、調査研究をまいります。

市民生活を支える「水の安心」

水の安心

建設環境委員会

今議会では議案審査に加えて、「稲荷山環境センターの現状と今後について」所管事務調査し、決算認定審査においては、稲荷山配水場の現地視察を行い、説明を受けました。

今号では令和元年5月末に事業が完了した「稲荷山配水場更新事業」の視察報告を行います。

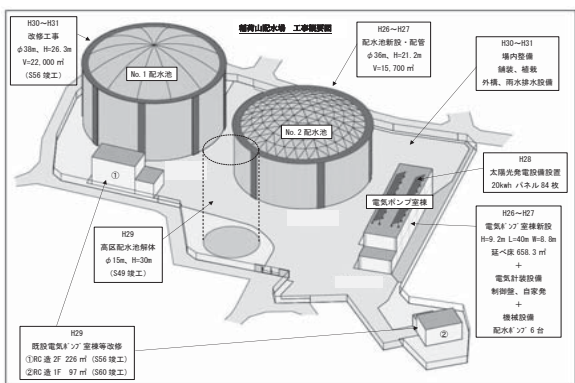
稲荷山配水場更新事業

稲荷山配水場は、市内配水総量の45%（入間川、奥富、新狭山、狭山台、入曽の一部地区）を賄う重要な施設です。

建設から40年が経過し耐震化対策と設備更新が必要となり、平成25年度から5年計画で、総工費約29億円をかけ工事が行われていました。

この工事により耐震機能の向上はもとより、新たに災害時の給水を行なうことが可能となり、「水の安心」に寄与する施設へと改新されました。

- ①施設：P・C造配水池2池及び電



稲荷山配水場工事見取図

- ① 気ポンプ設備
- ② 貯水容量：3万7千700立方メートル
- ③ 水源：泉水、鶴ノ木浄水場
- ④ 配水方式：自然流下及びポンプ加圧方式



熱心な質疑が行われました

※稲荷山配水場の更新事業が完了したことにより、狭山市内配水池の耐震化率は、78.4%になりました。

委員会 活動報告

地域と共に築く「新しい教育」の取り組みを調査

文教厚生委員会

小学校は来年度から、中学校は再来年度から学習指導要領が改訂されます。

このため、文教厚生委員会では、「新学習指導要領への対応状況について」の所管事務調査を行いました。

今を生きる子ども達が社会に出る頃には、社会はさらに急激な変化を遂げていることが予想されますが、その変化の内容を予測することは困難です。

そのため、まずはいまの枠組みや学習内容を維持しながらも、さらに知識の理解の質を高めていく



スマートフォンで作成したプログラムで、中央の球体ロボットを自由自在に動かせることを実演



プログラミング教育の目的は、技術の習得ではなく、論理的思考力を育むことにある

ことを基本的な考え方とするものです。具体的には、伝統や文化に関する教育の充実、考えて議論する道徳科の授業、外国語教育の充実、情報活用能力を高めるプログラミング教育の推進などがあります。こうした改訂内容に対し、準備を進めている現場の先生方に不安はないか、教材などに不足と考える部分はないかなどについて、調査しました。

引き続き「学力日本一のみち」の実現に向け、全小中学校で充実した指導が行われることを期待しています。

市民から信頼される議会を目指して

議会を目標して

議会運営委員会

市議会では、平成の時代に複数年をかけて特別委員会を設置し、議会の活性化について全体像を取りまとめました。その基本理念を、「市民から信頼される議会を目指して」とし、その実現のための成功要因を次の4項目と定めて具体的な施策を体系化しました。

- 1 公平・公正・透明な議会運営を推進していくこと
- 2 市民本位の政策決定、政策チェック機能を推進すること
- 3 政策提言と政策立案の強化を図ること
- 4 継続的な議会活性化への取り組みを行っていくこと



市民とともに歩む議会
次代を担う子どもたちが、市議会の模擬体験をとおして、市議会の仕組みや役割を学び、「ふるさと狭山」の市政に興味・関心を持ってもらうことを目的として、「子ども議会体験プログラム」を毎年開催しています。



(後列左から)千葉委員 笹本委員 齋藤委員 大沢委員 金子委員 内藤委員 (前列)太田委員長 綿貫副委員長

令和元年を迎えて、議会運営委員会では継続性を大切にして、基本理念実現のための成功要因から年間活動計画を策定しました。前期から引き継がれた課題解決に向けて取り組みつつ、市民にわかりやすい議会運営、円滑な議会運営を行うことを重点目標に掲げてひとつひとつ愚直に取り組んでいるところです。

改選後の初年度でもあり、個人の尊重と組織の協調性を大切にして仕組みやルールについても見直しながら、組織の秩序と調和のとれた合議体を目指してまいります。